

ふじみサラダボール子育て情報

「知恵を知識に」

令和5年2月21日号

板橋富士見幼稚園



ハイテンションとローテンション

就学前の幼児期の子どもにとって「遊び」こそが学習です。人間の人格形成（人間力）の基礎は、幼児期の遊びの体験からすべてを学ぶようにインプットされています。大人になると現実性が優先され、虚構性や想像性が衰退していきます。それは、論理的思考が発達し、物事を多角的に考えられるようになるからです。

幼児期に十分な遊びの体験をしてこなかった幼児は、大人から直接的に知識を学習させられることが多く、知識が固定化し、その知識を使って、多角的に思考することは難しいと言われます。では、毎日の遊びをどのように体験させていけば、豊かな人間力が育つのでしょうか。

まず、幼児期の発達を理解することが重要です。毎日目が覚めたときから、遊びが始まります。視覚的に捉えた刺激を受けて、好奇心がかき立てられ、興味や関心への判断力が働きます。自分にとって、ハイテンションとなる感情が沸き立つと、俄然、遊びの勢いが高まっていきます。遊びは、次々と変化変容しながら、刺激を高めていきます。ある程度刺激が高まると、その面白さに振り回されて冷静さを失い、周囲の環境から一時的に心が離れていくようになります。その時にタイミングを見て、「楽しそうね」「面白いね」など、大人が共感する言葉を投げかけてあげることで、子どものテンションはローテンションに向かって、冷静な思考に入ることができます。この冷静なテンションに戻すことで思考が働き、想像性を豊かにしていきます。想像性は、言語を豊かに育てる源泉です。この想像性に導くことが、有能感を育てる秘訣となります。



【写真：たくさん雪が降った翌日、皆で雪遊びを楽しみました】